

HOUSEN QUEST

太田市立宝泉中学校

学力向上通信 No. 5
(Lv. 20)

令和6年6月27日

学習する前の準備・・・

小学校低学年のときに、「鉛筆の持ち方」について、教わったことを覚えていますか。または、就学前に家族から教えてもらった人もいるかもしれませんね。「文字や数字を書く」ために、誰もが当たり前に行っていることを、再認識してみましょう。

【正しい持ち方】



- 親指と人さし指で鉛筆をつまむ
- 人さし指を鉛筆の削り端から0.5cm～1cmほどの位置に置く
- 親指は人さし指より少し後ろに置く
- 中指は下から支える
- 鉛筆をギュッと握らないよう指の力を抜く
- 手のひらに卵が入るくらいの空間をつくる

メリット

- ① 長時間書き続けても、疲れにくい！
→学習時間を増やすことができる
- ② きれいな文字が書ける！！
→小文字の「b」と数字の「6」などケアレスミスや採点ミスが減る
- ③ 速く書くことができる!!!
→1秒間で5～6画程度書けるので、板書を写したり、解答時間の短縮になる

【間違った持ち方】

<握り持ち>



文字を早く書けないばかりか、書いた文字のバランスも悪くなる。

<挟み持ち>



親指がほぼ休んでいる状態なので、鉛筆が固定されず、力も入らず、文字が薄くなりがちになる。

<かぶせ持ち>



力が入り過ぎて疲れやすくなり、ペン先の可動範囲が狭くなるので、文字が雑になりがちになる。

東大生の80%以上は、正しくできているらしい！？

引用：「Gakken 学研ステイフル」
<https://www.gakkensf.co.jp>